

「春の悔しさ晴らす」

甲子園壮行式 光星ナインが決意

第101回全国高校野球選手権青森大会で頂点に立った八戸学院光星高校は24日午前、八戸市の同校で、甲子園出場に向けた壮行式を開いた。選手たちは全校生徒や教職員ら約850人を前に、大舞台での活躍を力強く誓った。



23日の聖愛高校との決勝戦から一夜明け、ベンチ入りした20人は仲井宗基監督を先頭に堂々と体育館に入場。小野崎龍一校長が「優勝おめでとう。皆さんの活躍は本校に夢と感動を与えてくれた」と選手たちの栄誉をたたえた。

武岡龍世主将（3年）は「スタンドが一体となった応援は本当に力になった。春のセンバツは初戦敗退と悔しい結果だったので、甲

全校生徒に拍手で迎えられながら入場する光星の選手たち

子園の舞台でその悔しさを晴らしたい」と決意。仲井監督は「おかげさまで今年も甲子園に出場できる。令和最初の大会で光星の名を響き渡らせたい」と悲願の全国制覇へ気を引き締めた。

八学光星は2年連続10回目の夏県大会制覇。全国高校野球選手権は8月3日に組み合わせ抽選会を行い、6日に兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開幕する。

（工藤俊介）